

請 願 文 書 表 （平成29年3月22日定例会提出）

請願第24号

右京小学校の存続を求める請願書（観光文教委員会付託）

平成29年3月15日受理

請願者 右京ママの会 代表 外 39名
紹介議員 山口裕司

（要旨）

中学校区別実施計画（案）「後期計画」における「奈良市学校規模適正化」に伴う平城西中学校区における神功小学校と右京小学校の統合再編計画を受け、これに異議を申し立てるとともに右京小学校の存続を強く要望いたします。

（理由）

1. 魅力ある小規模学校、地域の子供の「学び」の拠点、「交流」の拠点をなくさないでほしい

「奈良市学校規模適正化」基準において「小規模」と位置づけている右京小学校（全校児童174人）は、小規模校としての魅力を兼ね備えており、一般に言う「切磋琢磨」論からは得られないところの社会性や能力が形成される教育効果があります。現在、右京小学校では、放課後の遊びや学童保育、幼稚園や保育園園児との交流、右京っこクラブ、防災、スポーツといったさまざまな地域活動が行われています。いわば子供の成長に必要な「学び」の拠点であると同時に、地域住民、保護者にとっても、交流、ネットワーク形成の場でもあります。子供の学びと成長の拠点、保護者の交流拠点である右京小学校がなくなってしまうことは、子供たち、地域住民、保護者にとって大きな損失です。

2. 通学時の安全面への不安

奈良市では過去に子供が巻き込まれた事件が発生したこともあり、保護者にとって通学時の安全面が一番の関心事です。右京地域には駅近の環境から共働き家庭も多く、学童保育を利用しています。登下校時の安全面、特に冬場の遅い時間帯の子供だけの学童保育からの帰宅など、不安が尽きません。

3. 若い世代、子供たちの住みやすい右京の街を残してほしい

右京地域から小学校がなくなれば、若い世代の流出が加速され、街が空洞化していくことは自明です。それでは市長が掲げた「若者が帰ってきたくなる街」からはほど遠く、逆に

1 「帰ってきたくない街、出て行きたくなる街」と化してしまいます。右京地域を子育て、教育のしやすい街として存続するためにも、右京小学校の存在は、私たち地域の核であり絶対に必要不可欠です。

奈良市が財政難や少子化を理由に、本計画を発表したことについて、「なぜ市政、財政難のしわ寄せが子供にいくのか」といった疑念がますます拭えません。子供は奈良市

の将来の「宝」であり、「人財」です。決して財政難のしわ寄せを子供に向けてほしくありません。

私たちの切実な思いが市政に反映されることを強く願います。

上記お願いいたします。